|  |  |
| --- | --- |
|  | No.41　　2011．7．24銀山中学校神　　貴　夫 |

「子どもの年間被曝量20mシーベルトは犯罪的で無責任」

～　クリス・バズビー博士記者会見　＊自由報道協会主催～

　久しぶりの自然と科学なんでもニュースの発行になる。原発事故当初、「直ちに健康に影響はない」に代表される大本営発表の欺瞞に怒りを覚え、放射能汚染の現実や内部被爆の問題を発信し続けてきた。事故後、3ヶ月ほどしてからは様々なメディアが拡散する放射能汚染の実態や内部被曝問題を取り上げるようになり、この通信の役割も一定程度目処がついたように思えたことや、本来の仕事が佳境に入ったこともあり発行を休止していた。ふと気がつけば季節は夏休み・・・・。福島県からはこの夏休みに転校していく児童生徒が相次いでいるという。当然だ。むしろ遅すぎたというべきである。高濃度の汚染地帯にはまだ多くの子どもたちが生活している。飯館村がやたらと取り上げられているが、現実は福島市を初め多くの市町村が飯館村と同様に汚染されている。飯館村に集中する報道には意図があるように思える。人口6000人程度の全村避難と、福島市や近隣都市の住民を避難させるとなれば規模が桁外れにちがってくる。この現実に手をつければ原発再稼動の可能性は永久に消え去る。そのことを恐れる者たちが、飯館村をスケープゴードにして時間稼ぎをしているのが現状だ。電力不足キャンペーンや「菅おろし」の政治的な動きも、従来の原子力産業の利益に与かる者たち(原子力村)の巻き返しである。多くのメディアはスポンサーとして原子力村と共存・共栄の仕組みをつくり、原子力の抱える本質的な問題を伝えてはこなかった。今回の福島第1原子力発電所事故に際しても、基本的にこの構造はかわっていない。

記者クラブに代表される大本営発表の受け売り報道ではない、真に自由な報道を目指す「自由報道協会」というものがある。過日、そこで欧州放射線リスク委員会（ECRR）科学議長の記者会見が開かれた。他のメディアは報道しようとしない真実がそこにあると私は思う。
～以下、記者会見内容より～

**欧州放射線リスク委員会（ECRR）科学議長　「子どもの年間被曝量20mシーベルトは犯罪的で無責任」**

**2011年07月22日07時00分**

クリス・バズビー博士(欧州放射線リスク委員会（ECRR)科学議長(英アルスター大客員教授）記者会見

**ICRPは内部被曝を考慮していない**

**博士**：ECRRは独立した組織で放射線を研究しています。20年間の研究の結論は、**（日本政府が基準にしている）ICRP（国際放射線防護委員会）の今までのリスクモデルが内部被曝に対して、非常に危険なモデルである**と言うことです。放射線物質が体内に取り込まれると、DNAに深刻なダメージを及ぼします。DNAが破壊されると、ガンのリスク上昇や胎児の発達異常、様々な病気の心配があります。

内部被曝は低い線量で起きてしまいます。ECRRのリスクモデルは2003年に、実際に被曝した人たちの疫学調査によって発表されました。原発の近くに住んでいる人や、1950年から60年代の全世界の核実験の「死の灰」を受けた人たちです。これを福島第一原発の状況に当てはめることが重要と考えます。

私が日本に来た理由は、福島の人々に状況がどれだけ深刻か、アドバイスに来ました。ECRRのリスクモデルが正しければ、ガンや新生児に影響がでるはずだから。**日本政府はICRPのリスクモデルを利用し、毎時1mSvという低線量なら暮らせるといっているが、実際は自然被曝量以上に数値が出るということは、その土地に放射能汚染が考えられる。**

今、車のエアフィルターを調べている。～中略～

驚いたことに、東京周辺と100キロ地域のフィルターからセシウム134.137が検出された。**アルファ線を発する物質もあった。つまり、ウランとプルトニウムだ。**しかしエアフィルターをガイガーカウンターで測っても数値は非常に低い。（検出されづらい）。**私は毎時0.1ミリシーベルトを越えたら避難したほうがいいと考える。**

1963年、核実験がピーク時のヨーロッパの空気の放射線の数値と、今の福島の数値を比べると、**福島はおよそ1000倍だ。そこにそのまま人が住み続けるとすると、福島第一原発から100キロ以内の地域で今後10年間にガンの発生率が約32％上昇すると言う計算結果が出た。**

これはかなり前からわかっているので、**政府が住み続けることを大丈夫と言っていることは犯罪的に無責任だ。**

それだけではなく、政府は独立した健康被害調査機関を設立し、ガンの発生率のデータを取るべきだ。

**質疑応答　　～中略～**

**Q：プルトニウムが検出されたのはそのうち1台ですか？**

博士：まだはっきりプルトニウムと言い切れないんですが、アルファ線が出ているので、まず間違いないと思う。今、イギリスでどの程度プルトニウムとウランが含まれているか解析中です。昨日会津若松でガンマ線の計測をしていたが、土壌がかなり汚染されている。**原発から100キロほど離れているが、2箇所でウラン235が検出**された。

**Q：日本では年間20mSv以下なら普通に学校で授業が行われ、外で遊んでいるが、これはどうなのか。**

博士：**日本政府は犯罪的なくらい無責任。**このレベルの放射線に子供達がさらされると後で大変な事になる。事故後に基準値を上げるとか、全く理解できない。私たちの理論があっていれば、**子供達の死亡率は上がり、大変な事になる。政府は内部被曝を、計算に入れていないのではないか。**内部被曝値を入れると会津若松ではもう20mSvを越えているのでは。

**Q：呼吸によって入ってくる内部被曝と食べ物から取る内部被曝に違いは？**

博士：一番気をつけなければいけないのは牛乳・酪農製品。人は腸の中から異物を排出する機能はあるが、呼吸、肺から異物を排出する機能はないので、呼吸として吸い込んだものはリスクの係数が高くなります。食物のどこに危険性があると言うと。まずは水。水はトリチウムを調べたほうがいい。ほとんど日本では調べてないのではないか。あとは牛乳、酪農生産物に含まれるストロンチウム・ウラン。海で言うと、海岸線の泥がかなり汚染されているので、そこに生息する貝類には危険性があるのではと思っている。

**Q：今も福島第一原発からは推測で、毎時10億ベクレルが出続けているとされている。それが私たちの健康に及ぼす被害を教えてください。**

博士：（苦笑）想像を絶する災害としかいえない。**福島第一原発は制御不能な状態**で、世界の誰もがコントロールできない。これは、日本だけの問題ではない。これは国際的な問題。国際原子力産業の問題。IAEAの高いレベルで対策をしなければいけない。理論上、**福島からずるずると放射線が出続ければ、(そのぶん）死亡率は高くなる**ということ。会津若松で普通に暮らす市民の皆さんを見ていると、あたかも普通の状態に見える。目には何も見えないが、機器を持ってくると、放射線は出ている。木を見ても鳥を見ても普通なのだが、これは大変な事だと思う。

**Q：今、日本の野菜の安全基準ヨウ素131が1キロあたり2000ベクレルだが、この数値をどう思うか？**

博士：ヨウ素131に対しては、いい対応策があります。半減期が短いから、いったん保存しておいて、2～3ヶ月でかなり数値が下がるので、それから売ればいいのではないか。全体として福島第一原発から200キロくらいの地域には、地域外から汚染されていない食品を入れる必要があると考えている。**日本の2000ベクレルという基準だが、とんでもなく高い数値。できれば、0～10ベクレルがいいと思います。**

**Q：ホールボディカウンターでは、過去の被曝量は測れないので、他に過去のヨウ素の内部被曝をはかる方法はあるのか？**

博士：実は、**ホールボディカウンターは、こういう場合あまり役に立たない。**ガンマ線を測るものだから。怖いのはベータ線とアルファ線。日本政府がちゃんと健康被害を測るか、分かりませんよね？**（今の検査は）人々を安心させるためにやっているだけで、科学的に真面目な方法だとは思わない。偽装工作にも思える。後で健康被害が出ても、「あの時測って大丈夫だったから、放射能のせいじゃないですよね」となるのが心配。**

**Q：本当は東京から避難しなくてはいけない状態なのでは？**

博士：放射性物質は確実に東京まで及んでいます。東京は人口が多いので、ある程度の健康被害が出るのは止むを得ないのではないか。10年ほどで出てくると思う。政府に対してプレッシャーをかけて、ちゃんとした組織を作り、環境と食物にどの程度放射性物質が入っているかを調査・インターネットにアップし、一般市民が自分で見て判断できるようにしたほうがいい。イギリスでは政府機関によって、ほとんどの食物の放射性物質や環境を測定して、いつでも見られるようにしている。1962年頃からやっている。

**Q：水に含まれるトリチウムの検査を日本はしていないとの事ですが、これが含まれているとどういう危険があるのでしょうか？**

博士：ECRRの基準だと大変だが、ICRPの基準ではトリチウムをかなり過小評価している。**動物実験で分かっているトリチウムの悪影響は、DNAの破壊力が強く、胎児の発達問題が起きる。トリチウムはベータ線を出すが、線量は微量。だから安心というICRPの考え方が間違っている。福島第一原発では原子炉を沢山の水で冷却しているので、汚染水からトリチウムが出ているのではと思っている。トリチウムは水と近い性質なので、体に入ると隅々まで回ってしまう。**

　「棄民」という言葉がある。辞書(日本国語大辞典)によると「戦乱、災害などの難民を、国家が救済せずに見捨てること。また、国家の救済から見放された人々。また、世の中から相手にされない人。」とある。国会や財界の面々が繰り広げる放射能劇場に目を奪われている内に、多くの被災地の人々が「棄民」化していく・・・・。

住民の内部被曝検査が始まった。ホールボディーカウンターの測定値を示され「この数値なら大丈夫です」との説明に笑顔を浮かべる人々の映像が流れている。しかし、博士も指摘しているようにβ線・α線の内部被曝の測定は基本的に困難だ。「大丈夫」だったのは被災者ではなく、「政府の補償負担」になる可能性もある。水俣病の認定基準と同様、**国の責任を免れるための免罪符として機能することを恐れる。**国が見捨てても、世の中は、そして私たちは見捨てるようなことがあってはならない。